

みのかも定住自立圏キャラクター

兄にもらった笠。
風呂に入るときも
絶対に脱がないほど
大切にしている。

加茂の「かも」と、和・
輪、1つにまとまった、
良いといった意味の「O」
から名づけられた。また、
この地方で里芋の呼び名
(品種)でもある。



妻が作ってくれた
おにぎりと好物の
里芋が入っている。

子どもの頃から泳
ぎが得意。
残念ながら空は飛
べない。

胸にはいつも“み
のかも定住自立圏”の
マーク。

40kmを2時間で走れるたくましい足(シドニーオリンピック金メ
ダリスト「高橋尚子」選手に匹敵するくらい!?)。
*マラソンと水泳は得意だが、足が短くて自転車に乗れないので、ト
ライアスロン出場を断念したことがある。

《プロフィール》

名前：かも丸

生年月日：嘉永3年(1850年)7月1日

年齢：170歳(既婚)

出身地：美濃国加茂郡深田村(現在の美
濃加茂市深田町)の加茂川河畔

趣味：読書、料理

好物：里芋、堂上蜂屋柿*

※高価なものなので、これまでに2回しか食べた
ことがない。

特技：水泳、マラソン

好きな言葉：かも(加茂)はO

《かも丸の生い立ちと功績》

かも丸は、日本が激動を迎えた幕末(江戸時代の終わり頃)の嘉永3年(1850年)7月1日、美濃
かも兵衛の次男として加茂郡深田村で生まれる。

明るい性格で、よく家の手伝いや勉強をし、近所の人たちからも慕われていた。



慶応3年(1867年)、かも丸が17歳の時に、尾張藩主の付き添いで江戸城へ登城。まちづくり
に興味を持つようになる。



明治3年(1870年)に中山道太田宿本陣・脇本陣が廃止に。かも丸が必死に廃止を阻止するも適
わず、しばらく失意の日々を送る。



その後の明治15年（1882年）、遊説に来た板垣退助と会談する機会を得る。かも丸は加茂地域の村々をまとめて連合村を作ろうと考え、加茂地域を走り回った。

その結果、明治21年（1888年）に、和知村（現在の八百津町）、加治田村（現在の富加町）をはじめ、10村の編成に成功する。



翌年の明治22年（1889年）、新市町村制が公布され、太田村は太田町になる。かも丸は合併協議の調整役を担った。

時は流れ、昭和25年（1950年）、坂祝村深田が太田町に分離合併して以来、市町村合併（昭和の大合併）が進み始め、かも丸はその調整を図るため加茂郡町村内を走り回った。そしてかも丸の苦労が実り、昭和29年（1954年）に、太田町をはじめとする8町村が合併し、美濃加茂市が誕生した。

大仕事を終えたかも丸は、かも美にプロポーズし、めでたく結婚する。その年の差は47歳である。



時は平成に移り、全国のあちこちで市町村合併が行われた（平成の大合併）。美濃加茂市と加茂郡の7町村も、平成15年（2003年）に合併に向けて協議を行い、かも丸はその調整のために奔走したが、最後には破綻してしまっただ。この結果を受け、かも丸は心を痛めて加茂地域から離れることになる（行き先は不明）。



平成の大合併が一段落した平成 20 年(2008 年)、国(総務省)は合併に代わる新たな政策「定住自立圏構想」を打ち出した。この構想を知ったかも丸は、美濃加茂市が中心市となつて、近隣町村と協定を結び、「みのかも定住自立圏」を作ろうと考えた。再びやりがいを見つけたかも丸は、美濃加茂市へと戻ってくる。



平成 21 年(2009 年)3 月に、美濃加茂市が定住自立圏構想の「中心市宣言」をする。その後、近隣町村と徐々に協定を結び、平成 22 年(2010 年)に中心市である美濃加茂市が、「みのかも定住自立圏共生ビジョン」を発表。かも丸は、協定締結のために忙しい日々を送る。

平成 23 年(2011 年)以降、かも美と一緒に、みのかも定住自立圏構想の実現に向けて、日々活動している。



これからも頑張るので
応援よろしくね!

※このお話は、史実をもとにしたフィクションです。

<用語集>

- 江戸時代・・・徳川家康が将軍になった慶長 8 年(1603 年)から徳川慶喜が将軍を辞めた慶応 3 年(1867 年)までの、江戸に徳川幕府が存続した 265 年間をいいます。
- 嘉永・・・江戸末期(孝明天皇のとき)の年号で、1848 年 2 月 28 日～1854 年 11 月 27 日までです。
- 太田の宿駅・・・宿駅は、江戸時代の街道の要所にあり、旅人の宿泊や休息のための宿屋・茶屋や荷物運搬の人馬の継ぎたてをする設備を持った所で、宿場ともいいます。太田村は中山道の宿場町でした。
- 新市町村制・・・市や町村の組織・権限などを定めていた法律で、明治 21 年(1888 年)、市制及び町村制として制定されました。昭和 22 年(1947 年)に地方自治法の成立によって廃止されています。
- 平成の大合併・・・2 つ以上の市町村を合体して新たに 1 つ市町村にしたり、1 つの市町村の区域内にほかの市町村の区域を編入することを市町村合併といいます。明治の大合併(1889 年開始)、昭和の大合併(1953 年)に続く 3 度目の合併の大波。1999 年 4 月 1 日に 3,229 あった市町村は、2010 年 3 月 31 日には 1,727 に減りました。
- 破たん・・・人と人(この場合は、団体と団体)の関係がうまく行かなくなること。
- 総務省・・・国の行政機関のひとつで、総務庁、自治省、郵政省を統合して平成 13 年(2001 年)に、発足されました。主に行政管理、地方自治、電気通信、放送、電波利用などを担当しています。
- 協定・・・2 以上の者において、当事者同士が何らかの意思が一致すること。協議して決めること、また、その内容をいいます。

<かも丸・かも美 Q&A(ホームページ ver)>

1. かも丸はどんな存在ですか？

かも丸は、定住自立圏構想における推進キャラクターです。美濃加茂市とその周辺にある加茂郡を含めて加茂地域といいますが、かも丸は加茂地域（住民の心）を一つにしたいという信念を持っていて、みのかも定住自立圏にいる私たちの心の中に住んでいます。



2. かも丸はなぜ今になって姿を見せるようになったのですか？

かも丸は、加茂地域で暮らす人・働く人・学ぶ人たちの手助けがしたいという思いが強くなって、生まれてから160年経った2010年ごろからようやく私たちの前に姿を見せるようになりました。



3. かも丸にはいつ、どこで会うことができますか？

かも丸は、加茂地域にいる私たちの心に住んでいるので、ふだんはめったに人目に触れるところには表れてくれません。

しかし、にぎやかなことが好きみたいなので、みのかも定住自立圏で開催されるイベントなどで会えるかもしれません。

幼稚園や保育園、小学校などに来てくれるかもしれません。



4. かも丸はなぜいつも笠をかぶっているのですか？

加茂地域を駆け回っているかも丸の頑張る姿を見て、雨・風・雪をしのげるようにと、かも吉兄さんがくれたものです。



5. かも丸はなぜマラソンが得意なのですか？

かも丸が生まれた時代は、自動車も自転車もなかったため、移動手段はすべて歩くことでした。いろいろな活動のために加茂地域を走り回っていたかも丸は、自然に走ることが早くなっていきました。

しかし、若いころと比べると、今は体力が落ちています。



6. かも丸は健康で長生きをしているのはどうしてですか？

かも丸が生まれたころは、食料が不足して食べるのが難しい時代でした。かも丸の家は、お父さんが農業をしていたのでそれなりに食べるものはありましたが、決して贅沢はできませんでした。

現在は食べるものが豊富になりましたが、かも丸は昔と変わることなく、家で採れた野菜中心の生活をしています。

かも丸は特に里芋が好物です。里芋には、食物繊維やビタミンB1、B2、カリウムなどが含まれており、脳細胞を活性化させ、老化防止や血圧・コレステロールを下げるほか、肝臓を丈夫にする効果があります。かも丸が健康なのは、そのおかげなのです。みなさんも里芋を食べましょう。

